



さくら

2022 新春

発行
 社会福祉法人 東桜会
 第75号
 〒420-0962
 静岡県葵区東 527 番地の 1
 TEL 054(247)8739
 FAX 054(247)8640



お正月のお屠蘇と双六と記念撮影



あけましておめでとうございます。

今年の元旦は穏やかに明け、私は朝からテレビで放送するダイヤモンド富士の初日を拝みました。

午前には毎年のように入所者の皆様と「新春の集い」に参加しました。密を避ける為と福笑いゲームに参加する予定の入所者のみの出席でしたが、ご挨拶の中で、最近ではほとんどの入所者が昭和生まれのため、「今年は昭和97年」になるとお話しすると、会場からは驚きの声もあり、昭和平成令和と3時代を生き抜いたことにもお祝いを述べさせていただきました。ご挨拶の後にはお屠蘇で乾杯し、新年のお祝いをしました。わずかばかりの盃のお屠蘇では満足せずにお代わりを求める入所者もありましたが、お祝いの盃のため御代りは丁寧にお断りさせていただきました。

昼食までの時間には職員手作りのすごろくゲームで正月を楽しみ、午後には玄関ホールに飾った鏡餅と一緒に記念写真に納まり令和4年の元旦を過ごしました。



麻機園 園長 秋山 通

★ ① らうかどには 福来る

★ ケアハウス「桜花」

大晦日の夜に「来年も宜しくお祈いします」と交わした数時間後には「あけましておめでとうございます」と入居者の皆さんとまた挨拶を交わし元旦を迎えました。

冷たい風が吹く年越しでしたが、柔らかな日が差す食堂でお雑煮を召し上がっている皆さんに元旦恒例のお屠蘇の振る舞いを行いました。普段お酒を飲まない方も「おめでたいことだからね」と少しだけ飲まれました。「もう少し飲みたかったなあ」と言う酒好きな方の声も。

そして風もない穏やかな午後には「新春の集い」と題して伝統的な正月遊びを楽しみました。

福笑いをしようとマスクを着けてタオルで目を隠すと、もう誰かわからない状態に。

目や口を付ける前のおかめさんと同じ顔になってしまいました。タオルを外してできあがった顔を見ると、目が寄っていたり垂れていたりで大笑い。続いてはカルタ取り、職員がカルタをテーブルに並び終えて「さあ始めますよ」と声をかけると何かおかしい、職員は読み札を並べていました。

「何やってるの～」とまた大笑い。福笑いにカルタ取り、正月の定番は古くは江戸時代から遊ばれていたとのこと。読み札にもあったように「笑う門には福来る」笑って過ごしていると幸せが訪れますよね。今年も健康で安全な一年でありますように。



ケアハウス桜花 生活相談員 佐藤勝洋



デイサービス通信 ～我らの人生これからだ～



2022年がスタートしデイサービスでは、手作りの神社と絵馬作りで新年を迎えました。神社でお賽銭を入れると、一人一人熱心にお参りをしました。絵馬を受け取ると真剣に願い事を考えます。自分の事、お子さんの事、又かわいいお孫さんの事……。 「とにかく皆が元気でいてほしい」という思いを絵馬に込め、獅子舞の壁画にかけました。



そして、毎年恒例の東海道五十三次の双六ゲームが始まりました。大きなサイコロを転がしながら、歴史街道を巡ります。沼津宿にこまが集まると、「ここで遊んでいこうよ」と盛り上がりました。「気軽に出かけることもできない世の中だけど、ここに来て皆の顔を見て1日過ごせば元気がでるよ」と……。今年も皆様にとって笑顔いっぱいの素敵な1年となるよう、心から願っています。

麻機園デイサービス介護職 芦口益枝

麻機園 新春の集い

1月1日に新春の集いを行いました。

「明けましておめでとうございます。」と園長の挨拶を頂いた後、入所者とお屠蘇で乾杯しました。「たまにはお酒もいいね。」「美味しい。」と声が聞かれました。

今年の年男1名と年女3名の方を壇上に案内し、今年の抱負を述べてもらいました。どの方からも「元気で1年過ごしたい。」「明るく過ごしたい。」などと前向きな抱負で、会場の参加者の共感を得ていました。

その後会場の模様替えを行い、お正月の定番すごろくゲームを6人程のグループに分かれて行いました。すごろくには今年の干支にちなんだ虎のモノマネのお題を設定しており、そのマスに止まった入所者は「ガオー」と照れ笑いをしながら可愛く鳴いたり、動きをつけ大きな声で「ガオー」とモノマネをする等、お題をクリアしながらさいころを振りゲームを進めました。各グループの1位であがった方には記念品を贈呈し、周りの入所者から拍手をいただき満足気にすごろくを終わりました。

皆様が今年一年健康で楽しく過ごされますように願っています。



麻機園 寮母 青木慶太

書き初めを行いました



今年も麻機園にお正月が来ました。

1月2日は、書き初めの会を行い多くの入所者が参加されました。数種類のお手本を用意し、それぞれ気に入ったお手本を選んで頂きました。



席に着くと今度は筆に神経を集中させ書き始めます。日ごろの書道クラブと違い会場には書初めの緊張感が漂う中、書きあげるといつもの笑顔に戻ります。「あんた上手いね。」「このはらい良いね。」などお互いの作品を褒め合い笑顔の記念撮影に臨みました。

作品は麻機園の玄関ホールに掲示して職員や入所者の皆さんに披露してあります

麻機園 寮母 高久 愛

